

出前講座実績

◇平成30年度

① 平成30年 5月27日(日)

参加者： 静岡市北部生涯学習センター美和分館
(アカデ美和)

参加人数： 12名

テーマ 「すごろくを楽しみながら交通を知ろう！」

講師： 長野工業高等専門学校
轟直希氏



長野工業高等専門学校の轟准教授を講師に『すごろくを楽しみながら交通を知ろう!』と題し静岡市北部生涯学習センター美和分館(アカデ美和)の小学生10名に受講いただきました。身近な交通から環境問題を考えるという少し難しいテーマではありましたが、ゲームや実験を主体とした説明に皆さん興味津々で分からないところは活発に質問が出ました。特に交通すごろくゲームは2回実施しても「まだやりたい」という声がかかるほど人気で環境にやさしい乗り物について考える良い機会になったようです。

② 平成30年 7月13日(金)

参加者： 徳友会

参加人数： 31名

テーマ 「道づくりの歴史と未来」

講師： 名古屋市緑青土木局
可児 誠



名古屋市緑政土木局の可児 誠様を講師に、「道づくりの歴史と未来」と題し、徳友会の会員31名に受講いただきました。街の発展とともに進められてきた「名古屋の道づくり」における道路の機能や役割をプロジェクトでの写真を交えて講義をしていただきました。今回の講義で、防災と耐震対策を含めた道路の必要性や重要性が良く理解できたとの感想は、名古屋の道路整備の現状と今後を考える良い機会となったようです。

③ 平成30年 7月18日(水)

参加者： 愛知県陸稲沢高等学校

参加人数： 26名

テーマ 都市と水の環境を守る
上下水道発達の歴史とその未来

講師： 信州大学 松本 明人



信州大学工学部水環境・土木工学科の松本明人准教授が、「都市と水の環境をまもる 上下水道発達の歴史とその未来」と題した講演をおこない、水環境をテーマに研究活動に取り組んでいる愛知県立稲沢高等学校農業土木科の1~3年生の生徒26名に受講していただきました。古代ローマから現代にいたるまでの上下水道システム発達の歴史を通じ、時代ごとに異なる上下水道への要求内容や、どのような技術でその要求に対応したかを、スライドなどを使用して講演しました。さらに上下水道が今日直面している問題にも触れ、どのような対応が考えられるかを農業に絡めて説明しました。普段は農業土木を学ぶ受講者の皆さんから、高い満足度が得られた講演となりました。

④ 平成30年 7月26日(木) 参加者: 名古屋(株) 参加人数: 77名

テーマ 地下鉄のあゆみ ~建設から維持管理まで~ 講師: 名古屋市交通局 福井 伸彦



名古屋市交通局の福井伸彦様を講師に迎え、「地下鉄のあゆみ ~建設から維持管理~」と題し、NEXCO中日本が運営する高速道路の維持管理のマネジメントを実施している会社及び清掃、植栽管理、補修工事、災害対応、除雪などを実施する協力を会社を指揮する20代前半~60代の社員77名に受講していただきました。プロジェクターを使用し、名古屋市の公共交通機関の中心的役割を担っている地下鉄、その歴史や建設工事の方法、線路の保守点検を分かりやすく写真を見ながら説明していただきました。テンポ良く話が進み、且つ、構成も2分割されており、メリハリがあって分かりやすく、十分満足された内容でした。

⑤ 平成30年7月31日(火) 参加者: 静岡市南部生涯学習センター 参加人数: 42名

テーマ 世界一の線路を守る~東海道新幹線の線路保守~ (新幹線のお医者さん ドクターイエロー) 講師: 東海旅客鉄道(株) 野村 清順



東海旅客鉄道(株)の野村清順様を講師に、「世界一の線路を守る~東海道新幹線の線路保守~(新幹線のお医者さん ドクターイエロー)」と題し、小学生及びその保護者42名に受講していただきました。スライド等を使用し、東海旅客鉄道(株)で行っている、保線業務の概要やドクターイエローによる検査業務等について講義をして頂きました。実際に新幹線の保守に関わる仕事をされている方から専門的な話を聞くことができ、子供達からも多くの質問がでて、とても貴重な機会となったようです。また、子供たちも「ドクターイエローのことがよくわかりとても良かった」と好評であり、十分満足された内容でした。

⑥ 平成30年8月19日(火) 参加者: 岐阜県聴覚障害者情報センター 参加人数: 9名

テーマ すごろくを楽しみながら交通を知ろう! 環境からバスや電車の必要性を考える 講師: 長野工業高等専門学校 轟 直希



長野工業高等専門学校の轟 直希様を講師に迎え、「すごろくを楽しみながら交通を知ろう! 環境からバスや電車の必要性を考える」と題し、聴覚障害者の方など9名に受講していただきました。環境問題の基礎を学んだ後、ゲーム、実験等を通じて、「環境にやさしい」とはどういうことかを考え、あらためて地球環境の大切さを知る良い機会になりました。手話通訳を通じての講座でしたが、質疑応答などでも積極的な意見交換が行われ、非常に楽しい講座だったようです。

⑦ 平成30年9月11日(火) 参加者: みのり大学東部学級 参加人数: 66名

テーマ コンクリートの世界 講師: 中部大学 平澤 征夫



中部大学の平澤征夫様を講師に、「コンクリートの世界」と題し、高齢者学級 みのり大学東部学級66名に受講していただきました。スライド等を使用し、コンクリートの基本や耐久性等について講義をしていただきました。一般の方にはやや専門的で難しいところもありますが、とても分かりやすく講義していただき、受講された方も熱心に聞いていられたようで、コンクリートのことについて理解が深まり、とても内容が濃い講座となったようです。

⑧ 平成30年10月10日(水) 参加者: (一社)建設コンサルタンツ協会中部 支部構造土質委員会技術講習会 参加人数: 57名
テーマ コンクリート建造物の長寿命化に向けて新材料を使いこなす 講師: 岐阜大学 國枝 稔



岐阜大学の國枝教授を講師に『コンクリート建造物の長寿命化に向けて新材料を使いこなす』と題し、一般社団法人建設コンサルタンツ協会中部支部構造土質委員会の委員57名に受講いただきました。過去に建設した建造物の維持・管理が重要となる時代の流れの中、この分野の第一人者である國枝先生のお話を皆さん真剣に聴講されていました。具体例を交え図や写真を多用した講演は参加者から大変好評で、複数の方からはコンサルタントとして新たな視点が得られたとの感想が寄せられました。

⑨ 平成30年10月25日(金) 参加者: 愛知県立東海商業高等学校 参加人数: 12名
テーマ 緊急地震速報で命を守る 講師: 愛知工業大学 小池 則満

愛知工業大学の小池 則満様を講師に、「緊急地震速報で命を守る」と題し、愛知県立東海商業高等学校の高校生12名に受講いただきました。東日本大震災、熊本地震を振り返り、講師の小池先生の体験談より、地震発生メカニズムや緊急地震速報の仕組みおよび日常生活での運用について、プロジェクトによる動画や写真を交えた理解しやすい講義でした。受講された生徒さんたちは、防災に対するいろいろな知識を学ぶことができ、自分たちが考えて行動することの大切さを学ぶ良い機会となったようです。

⑩ 平成30年10月26日(金) 参加者: 鯉城郷土史クラブ 参加人数: 15名
テーマ 必ず起こる地震に備えて ~地震から自分を家族を守るために~ 講師: 中部大学 山田 公夫

中部大学の山田公夫様を講師に、「必ず起こる巨大地震に備えて~地震から自分を家族を守るために~」と題して、鯉城郷土史クラブの会員15名の方に受講していただきました。スライドなどを用いて、地震発生メカニズム・規模と強さなど地震に関する基礎的なことや、名古屋周辺の過去に起こった地震といった身近なこと、さらには、液状化や地震への備えなど幅広く、解りやすくお話しして頂きました。参加された方も熱心に聞いており、「解りやすく、よく理解できた」と好評で、皆さん大いに満足されたようです。

⑪ 平成30年11月2日(金) 参加者: 愛知県立美和高等学校 参加人数: 810名
テーマ 緊急地震速報で身を守る 講師: 愛知工業大学 小池 則満

愛知工業大学工学部土木工学科の小池則満教授が、「緊急地震速報で命を守る」と題した講演をおこない、愛知県立美和高等学校の全校生徒・教員810名に受講していただきました。PowerPointスライドなどを用いて、地震発生メカニズム、美和高校周辺の活断層、緊急地震速報の仕組みとデモンストレーション、今後の課題などについて講演しました。体育館という広い会場でしたが、多くの生徒の皆さんが熱心に聴講してくれました。講演終了後のアンケートからも、多くの人たちが防災に関する興味や関心を深めてくれたことがわかりました。

⑫ 平成30年11月2日(金)

参加者：駿東部清水町立清水小学校

参加人数： 43 名

テーマ 新聞紙に乗ろう！橋の話と実験

講師：

愛知工業大学
鈴木 森晶

愛知工業大学の鈴木森晶先生を講師に迎え、「丈夫な橋づくり(新聞紙に乗ろう！橋の話と実験)」と題し、駿東郡清水町立清水小学校4年生の児童43名に受講していただきました。
児童は最初に橋の話の説明を受け、その後、1グループ4人(合計11グループ)で紙とセロハンテープを用いて試行錯誤しながら丈夫な橋を作りました。そして、完成したチームから順次ペットボトルに水をいれたものを錘として、強度試験を行い、橋の強さを競いました。愛知工業大学の学生さんの手助けもあって、テンポよく作業が進み、児童たちも十分に満足された内容でした。

⑬ 平成30年11月24日(土)

参加者：ま・ある

参加人数： 37 名

テーマ 列車の運行を支える線路をまもるおしごと

講師：

JR東海 島林 勉



JR東海の工務部保線課 島林代理、纈纈主席様を講師に迎え線路を列車が安全に走行できる仕組みを、主に小学生を対象にクイズを交えて判り易く紹介していただきました。
ドクター東海(線路の点検車)により線路の状態を検査する方法についても、図や映像を用いて紹介していただき、普段知れないことが知れたと好評でした。

⑭ 平成30年12月4日(火)

参加者：愛知県立鶴城丘高等学校

参加人数： 36 名

テーマ 電子紙芝居を使い、水害について考えるワークショップ

講師：

名古屋工業大学
秀島 栄三



名古屋工業大学の秀島栄三様を講師として、「電子紙芝居を使い、水害について考えるワークショップ」と題して、愛知県立鶴城丘高等学校の3年生36名に講義して頂きました。
最初に、デジタル防災紙芝居「大変だ、浸水しとる！！」を鑑賞した後、4グループに分かれて議論をしました。
秀島講師から「各グループとも議論の成果をうまくまとめ発表できた。」との講評をいただき、また、参加学生からは「水害について考えるいい機会となった」「皆で考えることで活発的なワークとなり、防災に対する意識が高まった」などの声が挙がり、非常に有意義なワークショップとなりました。

⑮ 平成30年12月5日(水)

参加者：愛知県立鳴海高等学校

参加人数： 80 名

テーマ 津波防災・高潮防災

講師：

名古屋大学
富田 孝史



名古屋大学の富田教授を講師に『津波防災・高潮防災』と題し愛知県立鳴海高等学校の3年生80名に受講していただきました。
津波防災として津波の発生機構や日本におけるリスク地域、津波被害の軽減対策を、高潮防災として高潮の発生機構、伊勢湾台風と2018年台風21号の高潮災害などを説明していただき、最後に津波と高潮の防災面、減災面での差異についても触れていただきました。
具体例を交え映像を用いた講演は参加者から大変好評で、津波の恐ろしさが分かったという感想もあり、総合的な学習の時間として十分有益だったようです。

⑯ 平成30年12月7日(金)

参加者: 愛知県立加茂丘高等学校

参加人数: 25名

テーマ 水循環と生物多様性

講師: 名古屋工業大学
増田 理子

名古屋工業大学の増田 理子様を講師に、「水循環と生物多様性」と題し、愛知県立加茂丘高等学校の2、3年生の25名の生徒さんに受講いただきました。

地域連携で活動をしている高校生と企業でビオトープを作るという課題の中で、ビオトープをよくするために、生物の多様性・水循環の観点からの取り組み方法について生徒さんたちとの意見交換を交えた非常にわかりやすく楽しい講義でした。

受講された生徒さんたちは、緑化活動に対するいろいろな知識を学ぶことができた良い機会となったようです。

⑰ 平成30年12月11日(火)

静岡市高齢者学級

参加者: みのり大学東部学級

参加人数: 65名

テーマ 気候の歴史をさぐる

講師: 名古屋工業大学
床建治朗



名古屋工業大学、床建治朗様を講師に、「気候の歴史をさぐる」と題し、「静岡市高齢者学級みのり大学東部学級」65名の方に講義していただきました。

講義は、スライド等を用い、さまざまな古気候復元資料、地球の気温を決める要素、過去65万年間の気候変動などの話をして頂きました。

「専門的で難しかった」という方もいますが、「この様な話は聴く機会があまりないので勉強になった」、「研究がどう今に活かされているか、もう少し知りたい」など、好評だったようです。

⑱ 平成30年12月11日(水)

参加者: 愛知県立刈谷工業高等学校

参加人数: 900名

テーマ 地震による地盤の液状化とは、どんな現象化か? 液状化は私たちの暮らしにどんな影響を与えるか 一必ず起こる巨大地震に備えて一

講師: 中部大学 山田 公夫

中部大学工学部都市建設工学科の山田公夫教授が、愛知県立刈谷工業高等学校の防災訓練の一環として開催された講演会において、900名を超える全校生徒と教職員の皆さんに向けて『地盤の液状化』に関する講演をおこないました。PowerPointスライドなどを用いて、液状化の発生メカニズム、過去に新潟で起きた液状化、東海地方で発生が予想される大地震と液状化の予測、現在実施されている液状化対策などを解説しました。講演終了後のアンケートでは、「防災に関する興味や理解が深まった」といった回答を、生徒の皆さんから多数いただきました。

⑲ 平成30年12月18日(火)

愛知県立愛知総合工科高等学校

参加者: 建設科1年

参加人数: 40名

テーマ 進化する建設材料

講師: 岐阜大学 國枝 稔



岐阜大学工学部の國枝稔先生を講師に迎え、「進化する建設材料」と題し、愛知県立愛知総合工科高等学校建設科1年生の生徒40名に受講していただきました。

講演時間90分に質疑応答を加えた2時間弱の長時間の受講でしたが、生徒は集中して聴講できていました。講演は建設材料に関する技術的な内容にとどまらず、大学・大学院でより高度な専門性を学ぶ意義についても講演して頂き、生徒は大いに感銘を受けていた様子でした。

⑳ 平成30年12月18日(火) 参加者：愛知県立鶴城丘高等学校 参加人数： 33名

テーマ これまでの川づくり・今後の川づくり
～ 主に治水の観点から～

講師： 名古屋大学
芦田 祐嗣



名古屋大学の戸田祐嗣先生を講師に、「これまでの川づくり・今後の川づくり～ 主に治水の観点から～」と題し、愛知県立鶴城丘高等学校3年生の学生33名に講義していただきました。講義では、治水事業の概要、歴史的変遷、今後の川づくりの方向性について、中部地域での事例などを交えて判り易く紹介していただきました。学生達は、どのようにして水害がおこるのか、水害の対策はどのようにされてきたのかを学び、水害の恐ろしさや日頃からの心構え、水害発生時の避難など、自ら考え行動することの重要性を認識し、大変有意義なものとなったようです。

㉑ 平成31年1月25日(金) 参加者：愛水ボランティア 参加人数： 40名

テーマ 阪神・淡路大震災ならびに 東日本大震災からの教訓と
大震災への対応について

講師： 名古屋工業大学
山本 幸司



名古屋工業大学名誉教授の山本幸司様を講師として、「阪神・淡路大震災ならびに東日本大震災からの教訓と大震災への対応について」と題して、愛試験企業庁OB組織(愛水ボランティア)メンバーの40名に講義して頂きました。まずはじめに、山本講師から阪神・淡路大震災および東日本大震災の概要と震災対応の教訓についてお話を頂き、来るべき南海トラフ大震災への対応について説明を頂きました。参加メンバーからは「わかりやすい内容で大変参考になりました」、「体験談もあり、今後自分で何をすべきか考えないといけないと感じました」や「職場内での地震に対する意識や対策(備蓄品や防災訓練)を改めて再認識し、自宅でも防災について対策していきたい」などの声が挙がり、非常に有意義なワークショップとなりました。

㉒ 平成31年2月10日(日) 参加者：東海発明研究会 参加人数： 24名

テーマ インフラで社会を守る、社会でインフラを守る

講師： 名古屋大学 中村 光



名古屋大学の中村光教授を講師に『インフラで社会を守る、社会でインフラを守る』と題し東海発明研究会の会員24名に受講いただきました。日本の災害履歴と大災害が発生した際の被害実態から、国土強靱化の必要性とその内容について説明いただいた後、中部地区での自助・共助の取り組みについて具体的にお話しいただきました。インフラの維持管理については皆さん漠然とした不安をお持ちのようでしたが「社会でインフラを守る」ことの重要性を実感として理解いただけました。

㉓ 平成31年3月4日(月) 参加者：愛知県生コンクリート工業組合 参加人数： 55名

テーマ 地震時の地盤の液状化
— 液状化は私たちの暮らしにどんな影響を与えるか —

講師： 中部大学理事
山田 公夫



中部大学理事・総長補佐、山田公夫様を講師に、「地震による地盤の液状化とは、どんな現象か? — 必ず起こる巨大地震に備えて —」と題し、「愛知県生コンクリート組合品質管理士合格者」55名の方に講義して頂きました。講義は、スライド等を用い、液状化現象の基本や新潟地震における液状化、東海地方で予想される大地震、液状化が発生しやすい場所、液状化対策などの話をして頂きました。みなさん熱心に受講され、「液状化地域のもう少し詳しい情報と、個人で出来る対処法について教えて欲しい」など、液状化に対する関心が高まったようです。